

平成25年度第5回 下京区西部エリアの活性化を目指す検討会議 議事録

《日 時》

平成26年3月25日（金）15:00～17:15

《場 所》

梅小路公園内「緑の館」1階イベント室（京都市下京区観喜寺町56-3）

《出席者》

別紙一覧表参照

《議事録》

1 開会

◆事務局（京都市総合企画局市民協働政策推進室 西田プロジェクト第三係長）

平成25年度第5回目の「下京区西部エリアの活性化を目指す検討会議」を開催する。本検討会議で育んだ関係者間の連携・繋がりには4月以降も何らかの形で継承していきたいと考えているが、「検討会議」という名称の会議体での活動は今回で最後となる。従前と同様、会議の様子は公開とし、報道機関席及び傍聴席を設けているので、御了承願いたい。

それでは、ここからの進行については、谷口座長にお願いしたい。

◆谷口座長

年度末の押し迫った時期にお集まりいただき、御礼申し上げます。一昨年4月に第1回会議をこの場所で開催してから2年弱が経ち、本日、最後の検討会議を迎えることとなった。次年度に設置予定の将来構想策定委員会とエリアマネジメントを検討する会議、その2つの組織に我々の2年間の検討結果をお渡しするための最後の重要な議論になるかと思う。全ての意見を報告書に反映するのは難しい場合もあるが、議論の足跡というのはとても大事である。ぜひ忌憚のない御意見を頂戴したい。

2 議事

（1）検討会議報告書のまとめについて

◆谷口座長

それでは、議事次第に沿って進める。まずは、議事（1）「検討会議報告書のまとめ」について事務局から報告をお願いする。

— 事務局から、資料2に基づき説明 —

◆谷口座長

報告書の内容についての議論は、後ほど他の議題と併せて60分ほど意見交換の時間を取っている。今の事務局の説明に対して御質問等がなければ、次の議題に進みたいと思う。

(2) 基礎調査の実施結果について

◆谷口座長

それでは、議題(2)「平成26年度の下京区西部エリア活性化の取組」について、事務局から説明をお願いします。

— 事務局から、資料3に基づき説明 —

◆谷口座長

平成26年度以降の取組のフレーム等について説明いただいた。御質問・御意見があればお聞かせ願いたい。

◆京都駅ビル開発(株) 営業部 林企画課長(奈倉委員代理)

26年度に設置予定の「エリアマネジメント組織設立準備会(仮称)」は、この検討会議を基に、ほぼ同じようなメンバーを移行して組織するものと捉えてよいか。

◆事務局(京都市総合企画局市民協働政策推進室 三科プロジェクト推進第三課長)

そのように考えている。新たなメンバーが加わる可能性もあるが、まずは検討会議メンバーである皆様方にぜひ御参画いただきたい。「エリアマネジメント組織設立準備会(仮称)」の考え方など、詳細はまた改めてお示しさせていただく。

◆平野委員

26年度一年間でどこまで取組を進める想定なのか。例えば、「将来構想策定」は26年度中の、「エリマネ組織の設立・活動スタート」や「将来構想の推進」は27年度以降の取組となるのか。あるいは、それらの取組も含めて26年度中に着手する予定なのか。

◆事務局(京都市総合企画局市民協働政策推進室 三科プロジェクト推進第三課長)

将来構想は26年度中に策定する。エリマネ組織については、26年度中に設立まで進めるか、あるいは27年度に設立とするかは、エリアマネジメント組織設立準備会(仮称)で皆様方といろいろ議論する中で定めてまいりたい。いずれにせよ、26年度中にある程度エリマネ組織の骨格を固められるよう、準備を進めたいと考えている。

◆谷口座長

今の御指摘はとても大事である、資料中に「エリマネ組織の設立・活動スタート」とあるが、これまで検討してきた事柄や将来構想の中身を実際に動かしていくエンジンに我々がなっていこうという、ひとつの方向性が示されている。下京区西部エリア活性化の担い手として、どのように関わることができるのか、各々前向きに御検討いただければありがたい。

◆太田委員

資料を見ると、平成26年度は、この検討会議を継続した形で「エリアマネジメント組織

設立準備会（仮称）」を立ち上げ組織の在り方等を検討する一方で、京都市の審議機関である「将来構想策定委員会」において将来構想の内容を審議するというので、取組が2つに分かれることになる。エリマネ準備会と将来構想策定委員会の間で、審議の連携や意見交換は行われるのか。

◆事務局（京都市総合企画局市民協働政策推進室 三科プロジェクト推進第三課長）

市の附属機関という位置づけである策定委員会においては、下京区西部エリアに加えて京都全体の活性化につながるようなビジョン・構想を策定すべく、大所高所から議論していただくと考えている。今回とりまとめる検討会議の報告書を策定委員会に提供し、下京区西部エリアの特性等を理解するための基礎資料として活用いただきながら、更に議論を深化させるイメージである。

エリマネジメント組織の設立に向けた準備と地域連携事業の継続に関しては、具体的に何に取り組むのかを議論しながら、併せて組織の在り方についても御意見を頂戴し、練り上げていく。どちらかという、エリア活性化の実働部隊に当たるものである。

◆太田委員

エリマネジメント組織の設立準備は、今年度にまとめる報告書の内容・方向性を前提として進められるという理解でよいか。

◆事務局（京都市総合企画局市民協働政策推進室 三科プロジェクト推進第三課長）

報告書の中で、エリマネジメント組織の設立についても言及している。おっしゃられたとおり、報告書に基づいて26年度の取組を進めていくということである。

◆谷口座長

この資料では、「将来構想策定委員会」と「エリマネジメント組織設立準備会（仮称）」の間に何の連携もないように見える。連携とはいかないまでも、情報をお互いに交換しながら進めていくということが分かるように、そのことが図示（矢印で結ぶ、コメントを加える等）されるとより良いと思う。

（3）報告事項

◆谷口座長

次の議題は「意見交換」であるが、これまでの話の展開から、先に中央卸売市場第一市場の施設整備に関する状況も踏まえた上で意見交換を行った方が良いように感じた。先にそちらの報告をいただいてから意見交換に移りたいと思うが、よろしいか。

それでは、議題（4）「京都市中央卸売市場第一市場施設整備基本構想（仮称）〈案〉に対する市民意見募集の結果」について、報告をお願いします。

— 京都市中央卸売市場第一市場 高木次長から、資料4に基づき説明 —

◆谷口座長

最後の回は参加できなかったが、施設整備基本構想の検討会議には私も参加しており、活発な議論がなされていた。とりわけ市場内で仕事をされている業者の方は危機感をお持ちで、市場を改革していきたいという気持ちがとても伝わる場であったと思う。

第一市場は、下京区西部エリアの「6つの資源」のうちの1つであり、とても重要な地域資源である。施設整備には時間がかかるが、我々の今後の活動と並行して進んでいく。併せて御意見を頂戴できたらと思う。

整備のスケジュールは、どのようになっているのか。

◆高木次長

今年度は基本構想ということで、整備の方向性・概念についてとりまとめを行う。来年度はより具体的に、それぞれの施設に必要な機能や流通動線等を詳細に検討の上、基本計画を定める予定である。基本計画の中で、賑わい施設のあり方についても詳細に検討を加えていきたいと考えている。

施設自体は、水産棟が平成31年度、青果棟が平成37年度に完成する予定である。

◆谷口座長

次年度は基本構想の詳細を詰めていき、水産棟が平成31年度、青果棟が平成37年度の完成を目指されるということである。これは建替えや一部リニューアルも含めて検討されているのか。

◆高木次長

青果棟は全面建替え、水産棟は老朽化の度合いがそれほどひどくないため、現施設を改修して使うこととしている。

◆谷口座長

平成37年度となると、10年と少し先の話であり、だいぶ時代もメンバーも変わるかもしれない。他に報告事項等がなければ、次の議題へ進みたい。

(4) 意見交換

◆谷口座長

それでは、議題(3)「意見交換」に移る。

先ほど事務局から説明いただいた検討会議報告書の内容についての意見交換を行いたい。加えて、今日が最後の会議となるので、これまで検討会議に御参加いただいた中でお感じになったことや、「今後こんなふうに活性化の取組を進めていきたい」といったメッセージもいただけたらと思う。

まずは10分程度、話をしたい方から自由に発言できる時間をとり、その後で順番に御意見を頂戴したいと思う。いかがか。

◆藤井委員

京都市都市緑化協会より、梅小路公園の近況を報告させていただく。JR社宅跡地にチンチン電車を移設するとともに新しい遊具を整備し、3月8日に2つの新広場として開園した。春休みということもあり、平日にも関わらず多くのお子さんが訪れており、これからますます梅小路界隈の賑わいが増してくると感じる次第である。

先日、「NIKKEI プラス1」で全国東西10か所ずつの公園が紹介されたが、西の第5位に梅小路公園が選ばれていた。全国からも注目を浴びているということであり、梅小路公園が下京区西部エリア活性化の核になるのは間違いないだろう。28年度に鉄道博物館が開業し、第一市場の再整備も進んでいけば、この賑わいが更に広がりを持つものになっていくと思う。

◆谷口座長

今の御発言に対する御質問や御意見等、いかがか。

梅小路公園はもともと都市の中の貴重な緑の解放空間・オープンスペースとして開園したと思うが、その点、新しい遊具の空間はどこか節操がないように感じる。人が集まればそれでよいというものではなく、もう少し筋の通ったコンセプトで整備を進めて欲しかった。

◆藤井委員

梅小路公園は「都心の緑の創造」をテーマに開園した。「朱雀の庭」や「いのちの森」等は、先駆的なエコロジー空間を形づくっているし、芝生広場は周辺を含めると6ヘクタールほどの広さがあり、緑の空間をしっかりと残している。新しい広場については色々な御意見があるかと思うが、もともと鉄道博物館用地にあった遊具スペースをどこか別の場所に確保しなければならぬということ、皆様の知恵を集め、現在のような大型遊具を設置する運びとなった。じきに馴染むと思うので、見守っていただきたい。

◆谷口座長

馴染んだ後に批判は難しい。いかに計画が大事であるかということである。他はいかがか。

◆京都駅ビル開発（株）営業部 林企画課長（奈倉委員代理）

この2年間、現地を歩いたり、アンケート調査が実施されたりと、検討会議の活動を通して、下京区西部エリアについての認識がはっきりとしてきた。改めて、毛色の違う様々な資源が集まっているということを実感している。

来年度以降の取組として、「エリアマネジメント」という言葉が気になっている。下京区西部エリアを活性化していこうという動きは素晴らしいが、個々の資源が目指す活性化の方向性は、これまでの議論の中でしっかりと答えが出されていないように思う。その状況下でエリアマネジメント組織設立の準備会を立ち上げるということ、26年度は非常にかじ取りの難しい局面に入ってくるだろう。しかしながら、この2年、あまり労力とお金をかけない範囲で、できる取組から着手したことは素晴らしい。これを今後どう繋げていくかが課題になるかと思う。京都駅ビルを盛り上げて、梅小路公園をはじめとする周辺に賑わいを繋げていくような取組が何かできればと感じている。

◆谷口座長

エリアマネジメント組織と言っても、どんな形で何をするのか、まだ私たちもわからない。2年間の検討会議では、大きな風呂敷を広げてその中で地域の資源を整理した。ここから先、具体的にどの資源を活用して、誰がどう働きかけていくのかを詰めるのが、26年度以降の取組になろうかと思う。今後、新しいプレイヤーが入ってくるだろうし、出ていくプレイヤーもいるかもしれない。場合によっては汗もかいて、何か身を削ったりするようなこともありながら具体的取組内容を詰めていく、そんなイメージを持っている。

◆市村委員

京都水族館開業を機に商店街を盛り上げようと、梅小路公園界隈の6つの商店街で活性化委員会を立ち上げた。今後さらに鉄道博物館も開業するということで、客観的な好条件は確かに揃っているのだが、それと各施設・団体の目標や目的がどれだけマッチしているのかということもいつも念頭に置いて、皆さんの話を聞かせていただいている。私の場合、検討会議に出席した後、梅小路活性化委員会メンバーから、「何をしに会議に出ているのか」と言われる。やはり、活性化委員会を作っただけのメリットを何らか産み出さないと、組織の意味がないのではないかと常に考えながらやっている。

商店街の主體的な弱さと梅小路公園の客観的な条件の向上を踏まえ、これからいかに育んでいくべきか。「もうちょっと頑張ってもらわないと困る」、「水族館ができて周りに飲食店が少ない」と、商店街はよく言われるが、大型スーパーなどでは中央卸売市場を通さずに品物を仕入れることがあると聞く。商店街同様、中央市場自体の存在感にも弱さがある中、これから将来構想が策定されるに当たって、負の状況をもう少し我々が主體的に背負って、梅小路本来の活性化を目指したいと考えている。

◆谷口座長

検討会議でまち歩きや意見交換を行う中でも指摘されていたが、「6つの資源」の横の繋がりがまだまだ弱い。資源間の連携をどう強化していくかということがポイントになると思う。

報告書では、6つの商店街を「レトロな商店街空間」という言葉で一括りに表現しているが、すぐそばにある第一市場といかに連携していくかということにまでは言及していない。そこへの踏み込みが、今後必要になってくるだろう。

その他いかがか。特になければ、ここから先は1人ずつ順番に御意見をお伺いしたい。市村委員には今御発言いただいたところなので、その次、京都駅ビル開発株式会社の林課長からお願いする。

◆京都駅ビル開発（株）営業部 林企画課長（奈倉委員代理）

まずは「6つの資源」それぞれが何をしていくのかという視点があって、初めて“連携”という話になるのではないか。いきなり「6つの資源で連携を」といっても、何か共通の目的や解決すべき課題といったものがないと難しいだろう。各資源の中でも、目指すべき方向はまだ一本化されていないように感じる。

◆山本耕治委員

今は現状存在する施設や機能をベースに将来のことを話しているが、来年度将来構想を策定する際には、今はない施設・機能についても言及し、30年後、あるいは50年後の将来ビジョンといったものも持ちつつ構想の内容を議論していかないといけない。「6つの資源」だけが頑張っただけで活性化したらよいという単純な話ではないと思う。

活性化の推進に当たっては、地域の住人の皆様の理解と協力も得る必要があり、一部の施設・事業者・団体等だけが儲かったらよいということではない。その辺りをきちんと整理しながら、来年度以降は取り組んでいく必要がある。

併せて、それを具体化するエリアマネジメント組織は、活性化の主体となる事業者や住人の皆さんが汗をかき、あるいはお金を出しながら、「30年後、50年後を目指してまずはこんなことをしていこう」といった感じで動く、息の長い取組になるだろう。下京区役所としても、予算に限りはあるが、事業者や住人の皆さんと一緒に考えながら活性化に資する事業を息長く続けていく必要があると考えている。

◆谷口座長

次年度以降、エリアマネジメント組織設立準備会と将来構想策定委員会それぞれの役割について言及いただいた。現在の検討会議メンバーは比較的事業者の数が多いが、来年度の将来構想策定委員会では、もう少し広い視野で議論がなされるイメージなのか。また「将来」というのが一体いつのことを指すのかについて、現時点で具体的な考えはあるのか。

◆事務局（京都市総合企画局市民協働政策推進室 三科プロジェクト推進第三課長）

将来構想や策定委員会の詳細については、これから検討していくところである。

◆谷口座長

「将来構想」であるので、30年先くらいを見据えて、そこに至る5年、10年、20年をどう作っていくかといったことを考えていただけたらと思う。

◆中村委員

2年間に渡る活動も、検討会議という名称では今回が最後である。来年度からはエリアマネジメント組織の在り方の検討や地域連携事業を、引き続き皆様と共に実施してまいりたいと京都市としては考えている。

エリアマネジメントという言葉に抱くイメージは、一人ひとり若干違うものであるかもしれない。エリアマネジメント組織とは一体何であるのか、わかりにくいのは当たり前の話で、エリアマネジメント組織には決まった形がない。対象とするエリアの特徴や個性、あるいは立地条件等によって、異なる形態の組織が異なった活動をしているのだろうと思う。検討会議の場を通じてお互いに顔の見える関係となった皆様を中心に、来年度は、この下京区西部エリアにふさわしいエリアマネジメントとは何か、また、それを推進する組織の在り方について、活発な意見交換をしていきたい。引き続き、皆様方にはよろしくお願い申し上げます。

◆山崎委員

本日は、京都市観光協会が実施する、平成26年度第39回「京の夏の旅」キャンペーン事業概要の資料を席上配布させていただいた。「京の夏の旅」は、JRの御協力により全国の駅でリーフレットの配架やポスターの掲示等を行うため、大変発信力の強い事業である。今回は、角屋、輪違屋の多大なる御協力により、非公開文化財特別公開として島原を発信させていただこうと考えている。個人で散策される方、あるいは京阪バスの定期観光バス等も含め、コンスタントに人を呼ぶことのできる一つのネタになるだろう。また、「京の夏の旅」が始まる前に、ホテルのコンシェルジュや旅行代理店の皆様、全国の報道機関の方々に現地を御覧いただき、新しい旅行商品の造成や、送客の御協力をいただくことになっている。

検討会議でのまち歩き等を通して感じたのは、下京区西部エリアには実際に歩いて見てみると分からない魅力がたくさんあるということである。このエリアにまず来てもらう、足を運んでもらうきっかけづくりができればと考えている。

また、本協会では、新規事業として「京都エリアウォーク・京都くるり」というウォーキング事業を開始する。年間で10を超えるコースを設定し、地下鉄駅を起点にして地下鉄増客も視野に入れた企画としている。7月は、京都駅から新選組ゆかりの地を歩くというコース設定で、東・西本願寺を中心に、14箇所ほどをガイド付きで歩いていただく予定である。

今後、下京区西部エリア活性化の取組を進めていくに当たっては、このエリアに関係する人だけが集まるのではなく、実際に仕掛けができる人(旅行代理店やJR以外の鉄道会社等)の参画が必要である。先ほど紹介したウォーキング事業も、本協会の職員だけでなく、ガイドボランティア協会をはじめとする様々な方の協力を得て行っている。役所の人間が全てを行うことできない。もう少し広く、様々な方を巻き込んで事業を進めた方がよいと思う。

◆谷口座長

とても大事な御指摘をいただいた。この検討会議は、活性化について検討するだけでなく、メンバーが実際に繋がり動いていこうという機運を共有する場でもある。今のお話は、まさに検討会議での出会いや経験が、実際の事業を形作る時に反映されているということである。ここに関わっている方それぞれが、当事者としてできることから取組を進めていくのはとても重要である。加えて、エリアマネジメント組織を立ち上げる際には、その構成メンバーについても皆様からアイデアをいただき、今は関係していない新たな仲間も含め、エリアの新しい未来を作る関係者をどれだけ集められるかということも大きなポイントになると思う。

◆北島委員

検討会議に参加して一番よかったことは、御出席の団体の皆様方の課題や方策がかなり理解できたことである。近所にある色々な組織、団体の、わかっているようでわかっていなかった各々の課題がここで発表され、理解できたことが私にとって大きな収穫であった。

第一市場の施設整備では、山陰線の高架のすぐ横、七条通沿いのスペースを「賑わいエリア」と位置付けている。また、そのすぐ西には今夏ランドオープン of 京果会館があり、飲食や物販の店舗が入る。梅小路公園の斜め向かいで新たな賑わいの創出が企画されており、5～10年後には多くの人はこちらへ流れてくるのではないかと予測している。

藤井委員がおっしゃられたように、梅小路公園が下京区西部エリア活性化の核になると思うが、梅小路だけが活性化するのではなく、そこからどう放射線状に賑わいを波及させていくのか、その辺りを今後のエリアマネジメント組織や将来構想策定委員会で具体的に検討していただきたい。

事務局をお願いしたいのだが、資料中に横文字が多いので日本語で解説願いたい。資料3でいうところの「エリアマネジメント」の概念・意味について、また、「プラットフォーム」という言葉についてもどういうイメージで使われているのか、教えていただきたい。

◆事務局（京都市総合企画局市民協働政策推進室 三科プロジェクト推進第三課長）

エリアマネジメント組織の形態は様々あるが、共通して言えることは、そのエリア・地域の価値を高めていくために、地域内外の関係者が主体となって取り組んでいくということである。プラットフォームについては、基本的な骨格、基盤となる協議会のような組織を作っていこうという意味合いである。今後はできるだけ平易な言葉を使って説明してまいりたい。

◆谷口座長

プラットフォームという言葉をまちづくり関連の話の中で使う場合は、もう少し意図・意味がある。電車のプラットフォームのように多様な人が集まってそこで議論し、「よし、これでいこう」となったら、また電車に乗って出ていく、その集まる場を作るということであるだろう。カタカナ語はできるだけわかりやすく表現し、同時に新しい言葉を学んでいく姿勢も持ちつつ、取り組んでいければと思う。

◆高木委員

第一市場を「6つの資源」のうちのひとつに位置づけていただいている。市場の本来の機能は生鮮食料品の供給であるが、一方、最近では「和食」がユネスコの無形文化遺産に登録されたことも追い風となり、食文化・食育の発信拠点という機能も謳っている。そういった観点からも、先ほど北島委員が言及された「賑わいエリア」の整備等を通して、食と賑わい、そして下京区西部エリア活性化の取組とをしっかりとリンクさせていかなければならない。

周辺の商店街との連携については、市場の施設整備基本構想検討会議においても何度か指摘があり、基本構想（本冊）に記載した。下京区西部エリア活性化と市場の本来機能とをどれだけリンクしていくかは大きな課題であるが、可能な限りしっかりと連携していきたい。

また、基本構想に関する市民意見募集では、30代以下の若い世代からの意見が少なかった。若者をはじめとする市民の市場への関心の低さが、課題のひとつとしてある。そんな中、京都女子大学と昨年地域包括連携協定を締結し、市場の食材を使ったメニュー開発等の取組を進めている。そういった成果を、周辺の商店街との連携や下京区西部エリア活性化にかかしていければと考える。

◆谷口座長

第一市場に対して御質問等があればお聞きしたいと思うが、いかがか。

◆市村委員

第一市場では毎月「食彩市」を開催している。一般市民が普段入れない市場の中でマグロの解体やお得な買い物等を楽しむことができ、いち消費者としては大変よい企画であると思う。しかし同時に、商店街の魚屋は「あんなことをされたら近所の魚屋の売れゆきに影響する」と怒っている。そういった矛盾が生じており、商店街ひとつ取っても難しい問題がある。

◆高木委員

「食彩市」は毎月第2土曜日に開催している市場開放イベントであり、非常に多くの市民の方に御来場いただき活況を呈している。観光客や市民の方々に市場に足を運んでいただくよい機会であり、好評の声をいただいているが、一方でこうした市場の取組について影響を感じている周辺商店街の皆様方の御理解を得ることは大切であり、課題でもある。そのあたりを踏まえて、御理解をいただけるよう努めながら取組を続けてまいりたい。

◆山崎委員

錦市場では、色々な商店が調理したものを串で刺して販売し、食べ歩きが楽しめるよう工夫している。「お客さんがとられて困る」と考えるだけでなく、例えば、商店街の方でも市場のイベントに合わせてお得な値段で食べ歩きができるグルメを考案し、市場がそれを一緒に広報するということも可能かと思う。調理したものは市場ではあまり売られていない。「市場では生ものを持ち帰り家で食べないといけませんが、商店街に行けば今すぐ食べ歩きができる」といった形で、協力し合ってイベントを盛り上げる道を探った方がよいのではないかと。

◆谷口座長

とても前向きな良いアイデアをいただいたが、どうか。

◆市村委員

後で商店街に伝えたいと思う。

◆谷口座長

これもひとつのプラットフォームで、今まで離れていたためにアイデアがあっても働きかけることが難しかったものが、検討会議という場で繋がった。今後、これを機に当事者同士が直接相談し、実際の取組に発展していけるとよい。

先ほどもお話があったが、京果会館がリノベーションされる。今、リノベーションというものが大流行りだが、これは建替えではなく、建物の持つ元の良さをいかしつつ用途や機能自体を変えてしまい、新築当初の目論見とは違う次元に改修することである。中央卸売市場があるからこそその機能やブランドを活用した取組が周辺で広がっていくと大変おもしろい。

◆外池委員

商工会議所でもこの地域に注目しており、これからどんどん賑わいが進んでいく場所だと考えている。アクセス面の改善や賑わいの広がりにも期待し、また応援していきたい。

個人的な意見として、このエリアだけをとって見ても実に様々なものが集積している。他の地域あるいは他府県と比較しても珍しいのではないか。掘り下げて、今はもう見えない、このエリアで起こったストーリー等も合わせて魅力を繋げていくと、どんどん可能性が広がっていくと思う。例えば、今は近代的なビルになっていたり、何もないような所でも、地名などから過去を辿ったら実はこんな面白い歴史があった、ということもあるだろう。「京の夏の旅」の話でもあったが、エリアの内外で同じような題材を持つ資源同士を繋ぐといった形の連携も考えていけるのではないか。この検討会議がそのための様々な協議の場であったと考えている。今後も協力させていただきたい。

◆藤井委員

先ほど谷口座長から「緑が大切である」というお話があった。その観点からも、まだまだ活用の余地がある「朱雀の庭」「緑の館」を活性化させていきたいと考えている。追加で資料を席上配布させていただいたのだが、4月には「桜まつり」「春の和の花展」を開催し、4日、5日には「緑の館」で方円流の煎茶席も設ける予定である。

エリア内連携については、「6つの資源」を全部まとめてレベルアップするのではなく、できるところから活性化を進めたらよいと思う。梅小路公園では、再整備に伴い市電を活用した総合案内所を園内に設置し、イベント情報等のチラシの配架や昔の市電の写真展示を行うとともに、土日には案内人を配置している。案内所の中には小さいながら広告ボードもあり、うまく使って下京区西部エリアの様々なコマーシャルができればと考えている。また、この検討会議を通して繋がりができた龍谷大学に、学生の学習、研究の場として市電案内所を活用したり、案内人役を担っていただいたりすることはできないだろうかとの依頼をし、前向きに検討するとお返事いただいているところである。

◆谷口座長

梅小路公園は非常に多くの人が集まる場所となった。その集客を周辺にどう展開していくか、ぜひ御協力いただきたいと思います。

◆高梨委員

こういった取組は概ね3～4年ほどかけて答えを出していかないといけないので、来年が大事な年になると思う。「こんな問題があるから皆で協力して答えを出していこう」という議論に加え、「下京区西部エリア、あるいはその周辺も含めたエリアが将来どんな風になってほしいか」というビジョンがないと、取組は前に進まない。30年後の将来となると付き合うのがなかなか大変なので、例えば東京オリンピック開催の2020年、あるいは10年後辺りを目途として、本当になって欲しい地域の姿とはどんなものを自ら考え、取組を進めていく機運が高まっていくのが望ましい。我々NPOとしても、積極的に関わってきたい。

今年度基礎調査を実施するに当たり、私も梅小路公園で来訪者アンケートを取ったのだが、団体で来られた60～70代の女性たちが「ここに孫を連れて来たい」と言っていた。一度きりの来訪ではなく、繰り返し訪れていただくことが大事だと思う。そこで大事なのが、どんな人たちに訪れてほしいかというターゲットの問題である。私個人としては、京都は「大

人のまち」のイメージが強いので、下京区西部エリアのターゲットを敢えてファミリー層や子どもたちとするのも良いだろう。そうしたターゲットの設定を行った上で、わかりやすくエリアの課題・方策を整理すべきである。

下京区の人口は増加の傾向にあるが、それに伴い地域に関わらない人たちも増えるというのは問題である。商業の活性化や観光と同時に、コミュニティの維持・継続という2つのテーマを追いかける必要がある、エリアマネジメント組織を作るとしたら、両方の利害と目的が話せる場でないといけないと思う。3～4年で答えを出すに当たっては、やはり何か具体的な活動をしないと答えは出ない。一番分かりやすいのは、エリアにより多くの人を呼び込むための共同プロモーションを行うことだろう。その一環として、例えば新しい観光標識を作りその情報を発信する。地域の方々も巻き込み一緒に考えながら、普通の観光標識ではなく、土産話となるような地域のストーリーを付加した新しい標識を考えてはどうか。

地域に関わっている人たちがちゃんと議論をして、取組を継続することが大事である。地域が関われば、年度の変わりに伴い人も変わって同じことをもう一度繰り返すというようなことがない。継続的に10年議論できるということであり、それがエリアマネジメント組織を作る意義だと思う。皆さんが主体となって取り組む意思を持ち、エリア活性化に向けて本当に大事なことは何かを議論しながら実際の活動に結び付けていけば、きっと答えも出てくる場となるだろう。

◆谷口座長

理想の将来ビジョンを想定し、そこを起点に今何をすればよいかを考える「バックキャストリング」という手法が流行っている。現在の課題だけを見つめていたのでは未来はつukれないので、「10年後こうありたい」というような像を描き、それに向かって一つ一つ具体的な活用に取り組んでいけたらと思う。

◆山本芳孝委員

検討会議報告書は、それぞれの資源に関する課題まで克明に記録されており、よく書かれている。今日「緑の館」へ来る途中、あまりにたくさんの方が梅小路公園にいたので、藤井委員に聞いたところ「最近はいつもこうだ」というお話であった。やはり、人が集まらないと話にならない。人が集まることによってそのエリアにお金落ち、賑わいもできている。多くの方がこの下京区西部エリアに賑わいをもたらしてくれるよう、課題を解決していかなければならない。

兵庫県の山城・竹田城は、地元の方がコツコツと城のPRをされていたそうだが、ある時からテレビの報道や映画のロケを通して「日本のマチュピチュ」「日本のラピュタ」と呼ばれだし、爆発的な人気を博すようになったということだ。今では逆に、観光客に遺構を壊されないよう保存に苦心しているとも聞く。このように、他所にない魅力を粘り強くPRし、世間の話題にのぼるよう考えないと、下京区西部エリアの資源が生きていけないのではないかと。

その点からも、商店街の振興には特に関心がある。現状、空き店舗が多く、そこで何をするかは立地等の条件により異なるだろうが、とにかく店が開いていないと意味がない。例えば学生が社会勉強として店舗展開できるチャレンジショップのようなもの、あるいは養護施

設の方が作った芸術作品の展示・販売等、話題性のある取組をお金をかけずに展開し、活性化に繋げていく工夫が必要である。

「京都しもにし通めぐりウォーク」に参加した知人が、このエリアには面白いものがたくさんあると言っていた。専門的な説明のできるガイド、例えば京都検定1級を持つ人を活用したボランティアガイドなどを揃えることができれば、より多くの人に下京区西部エリアの魅力を発信できるだろう。また、この広いエリアをあちこち移動して観光するのは楽ではなく、アクセス面の課題は大きい。下京区西部エリア限定のお得な一日乗車券や、エリアを周遊できる100円バスなど、高齢者を含むたくさんの人に歩いて周ってもらえるような面白い仕掛けを考えていけるとよい。今後がんばって一緒に取り組みたいと思う。

◆谷口座長

多くのアイデアをいただいた。次年度、小さなことから1つでも始められたらと思う。

◆鈴木委員

KRPの直接のお客様は一般市民でも来訪者の方でもないので、当初は下京区西部エリア活性化の取組にどのような貢献ができるのかと想っていた。報告書で「6つの資源」の一つにKRPを位置付けていただき、改めて、この「6つの資源」というのは、他には真似のできないポテンシャルを備えていると感じた。私どもとしても、貢献できることをしっかりと考えたいし、今後この「6つの資源」をうまく繋いでいくことが大切であると思う。

KRPでは、様々なプラットフォーム活動を行っている。例えば、「再生医療サポートプラットフォーム」として、通常は関係のない、ものづくりのメンバーと医学部の先生とを、私どもが間に入って繋いでいる。京都のものづくりの技術を、再生医療研究の現場から出た「こういうものが欲しい」というニーズに繋いで活用することができ、新たな発見があった。また、「デザインプラットフォーム」は、若手職人の育成に一役買っている。職人は良いものを作ったら売れると思っているが、世界的なビジネス展開に当たっては、しっかり戦略・戦術を練らないと良いものを作っても売れない場合がある。そこで、市の産業技術研究所と職人の方々とで、せっかく作った良いものをうまく世に出していくための勉強会を行っている。

「6つの資源」のそれぞれが高い潜在能力を有しているとしても、その価値を高めるだけでなく、統合して表現・アピールしていくことが必要ではないかと感じている。その点については、来年度エリアマネジメント組織の在り方検討と地域連携事業を行っていく中で、あるいはその後に立ち上げるプラットフォーム（＝エリアマネジメント組織）において取り組んでいければと思う。微力ではあるが、これからも一緒に取り組んでまいりたい。

◆谷口座長

KRPに期待を寄せている。今は「6つの資源」においてKRPを他の資源と並列に位置付けているが、そうではなく、下京区西部エリア内の課題等をプラットフォームの中で学び研究し、仕組みを作り、人を育てるような、そんな立場から関係していただくのも良いのではないかと感じた次第である。KRPに集まる人材や知識、経験、様々なネットワークを「下京区西部エリア」というフィールドでどうにかせるか。また、御検討いただきたい。

◆鈴木委員

もう1点、御報告させていただく。検討会議報告書（案）に、KRPについて「約300社が入居し、1日あたり約3,000人が利用」と掲載されているが、アベノミクスの効果もあり、利用実績は「約340社が入居し、1日あたり約4,000人が利用」と増加した。平成26年4月以降は、そのように発表していく予定である。

◆本政委員

昨年から検討会議に参加している。梅小路公園とその周辺を含むエリアの活性化に向け、これだけ色々と話し合いをしていることについて、非常に結構なことだと喜んでいる。

梅小路を有する地元の学区としては、鉄道博物館が開業する平成28年、ここから本当に物事が動いていくのだろうと考えている。今こうして色々と議論されているが、本来、施設ができれば人は勝手に寄って来る。そうすると「市」が立つ。「市」が立つことが活性化であると、私は常に思っている。そんな中で何を一番大事にし、中心に据えていくのかを決めることが、この会議の一番の仕事であると考え。ゆえに、平成28年、鉄道博物館ができた時に初めてこの会議の真価も問われるだろう。梅小路の活性化というものが、目に見えてはっきり表れることと思う。

◆谷口座長

鉄道博物館ができれば、この辺りの主要な集客施設が揃うこととなり、その時点が確かに勝負所かと思う。「施設ができ、市が立ってこそ活性化」というのは、現場にいらっしゃる方の肌感覚の大切な言葉だと感じた。

◆西村委員

皆さんの前向きな姿勢が本当に素晴らしいと思う一方で、「6つの資源」の一つである「レトロな商店街」については非常に課題を感じている。現在の6つの商店街が、報告書に書かれているような「来訪者からも地域からも愛される商店街」となりうるか、あるいは「レトロな雰囲気歩いて楽しめる歩行者空間」でありうるか、地域の間人として疑問を感じざるを得ない。市村委員が懸命に6つの商店街の連携を図り、活性化に向け尽力されていることには敬意を表すが、商店街の現状を毎日のように見ていると、残念ながら「6つの資源」の回遊性の一翼を果たせるような環境ではないと思う次第である。

七条通に面した地域には、下町気質の住民がたくさんいる。かつては、レトロな雰囲気の商店街と住民とがマッチしていたが、近年、特に若い婦人層は勤めている方も多く、忙しい中で一軒一軒ゆっくりと対面で買い物をする時間の余裕がない。そして、帰宅する頃には既に商店街は閉まり掛けているような状態であり、商店街とお勤めの方の生活時間帯とがかなり異なっている。まず、商店街会員の方の自助努力が必要ではないかを感じている。

また、客数が減ってくると、アーケードは自転車天国のような状態となり、ものすごいスピードの自転車が歩道を走り抜けていく。そのため、主要な顧客であるはずの高齢者に「七条の商店街は怖い」という観念を与えてしまっており、千本通から御前通までお客さんはまばらな状態である。こんなことを続けていたら、とてもじゃないが商店街は持たない。我々

地域の側としても、これまで商店街の執行部の方々とじっくり話し合ったことはなく、このような状態になっていることについては、我々にも少し責任があるのではないかと感じている。地域と商店街とがしっかりと交流して、お互い情報交換をしていきたい。新年度は、地域の側から商店街の皆さんに声をかけて、今後の運営、活動について話し合いの場を持たねばならないと考えている。

◆谷口座長

現場で感じていらっしゃることをお伝えいただいた。これは商店街へのエールと受け取っている。ぜひ、同じテーブルで会話をする中で、双方いさせる形を探っていただきたい。

◆市村委員

西村委員は私以上に商店街のことよく御存知であり、耳を大きくしてお話を聞いていた。梅小路界隈の6つの商店街では、ここ1年で地元小学校との連携をかなり深め、「1日店長」や「いきいき清掃」、「ワーキングスタディ」等と一緒に取り組んできた。これは今までになかったことである。また、嶋原商店街では日曜・祭日の通行者がかなり増えている。そのことと実際の商売とが結びついていない点が残念ではあるが、しかしながら、こうして6つの商店街が集まり「梅小路活性化委員会」として活動することで、1つの商店街ではできないこともできるようになってきた。西村委員の御意見に対してまだまだレベルが足りないと思うが、コツコツと取組を積みあげて、活性化に向け頑張ってもらいたい。

◆谷口座長

意見を交わす中で、きっとお互いに助け合う場面が出てくるのではないと思う。今後も積極的に取り組んでいただきたい。

◆三輪委員

今年度から検討会議に参加し、1年が過ぎた。皆様の御意見は非常に参考になった。本日も、先ほど高梨委員から「子どもや親子連れをターゲットにした活性化を考えてはどうか」という御意見があったが、西本願寺においても、夏には子ども向けの一泊二日の企画を実施しているところである。活性化には、リピーターを増やして何度もこのエリアを訪れていただくことが一番だと思うが、親子連れで訪れたその子どもが、何年か後に大人になって再度訪れるようになれば、それもリピーターと言えるだろう。何を目指すかを長いスパンで考えることが必要であると思う。

報告書に、交通アクセスの問題が書かれている。先日、市交通局と合同会社京都まちづくり交通研究所の連携の下「東寺・水族館・西本願寺エクスプレス」というバスの運行が開始されたが、私が見た限り、お彼岸の2日間ほとんど乗客はいなかった。京都駅八条口から東寺、水族館、西本願寺を回ってまた八条口に戻るのだが、烏丸や五条まで含んだルートに改善すれば、もっと活用されるのではないか。前回も意見のあったとおり、市交通局の方に参画いただければ、バスの運行についての検討もできるだろう。今のメンバーだけでは結論が出せない部分について、来年度以降、様々な方の参画を得ながら解決していければと思う。

◆真宗大谷派（東本願寺）犬島広報担当（畠山委員代理）

検討会議の取組の1つ「京都しもにし通めぐりウォーク」の企画に、東本願寺も参画した。「東本願寺『界限』を巡る」というテーマ設定で周辺の商店にも協力を求め、数珠や金箔といった伝統工芸品によって寺が成り立っていること、また、寺があることで参拝者が訪れ、その影響で周辺に商店が次々にできてきたという歴史をお伝えできればと考え、企画を練った。東本願寺の中には16の部署があるが、実際に参拝者と直に接する職員は限られている。様々な方をお迎えして案内するという経験が不足していたため、まずは、職員自らがまちのことを知ろうとマップを作り、事前に当日と同じルートを歩いて案内の練習をした。下京区西部エリア活性化の一環として取り組んだが、東本願寺のことをより多くの方に知っていただくという職員の意識の活性化にも繋がり、この事業に参画することができて良かったと感じている。

これまで周辺の商店となかなか連携する機会がなかったが、これをきっかけに今後も様々なことに取り組みたい。また、東・西本願寺には、皆様に集まっていただける広い場所があるので、商店だけでなく、地域住民の方とも日頃から繋がりを持って、共にこのエリアの活性化を考えていけたらと考えている。

◆谷口座長

エリアの活性化と同時に組織、職員の活性化に繋がったのはすばらしい。更に、今後は地域住民とも連携を考えておられるとのことであった。「訪ねて良し」のみならず、「住んで良し」とも言えるよう、各事業者がどう地域に貢献していくかという視点はとても重要である。

◆中川委員

まず、この検討会議のメンバーに加えていただいたことに感謝を申し上げる。今まで皆様と一度もお会いしたことがなかったため、こうした機会が得られて良かったと思う。また、最近、市長の肝いりで、「京都をつなぐ無形文化遺産」に「京・花街の文化—いまも息づく伝統伎芸とおもてなし」として五花街と島原が選定され、嬉しく思う。

活性化に当たり、せっかく選定された“花街文化”の品格にふさわしくないことはしてはいけないと思う。検討会議報告書の中で、島原の活性化策の1つとして「歴史的建造物を舞台としたミニコスプレサミット等」と書かれているが、いかがなものか。地域住民の方にとってマイナスイメージになるようなことは絶対にできないので、十分に配慮しながら取り組んでいかなくてはならない。

先ほど今年度の「京の夏の旅」の企画を御紹介いただいた。角屋は例年、夏季休館としているが、今年度は特別に開館するものである。この機に通常非公開の2階部分も御覧いただきたいが、襖絵の亀裂がひどく、緊急の修理を府の文化財保護担当へお願いしたところである。文化財はやはり保存が第一であり、活用ばかりでは傷んでしまうので、1階のみの公開とさせていただいた次第である。

来年のNHK大河ドラマは吉田松陰の妹が主人公であるが、その夫である久坂玄瑞は、角屋を訪れていた。その関係で今年や来年あたりは、角屋や島原へ観光客が来られるのではないと思うが、それ以降、どう来訪者数を延ばしてしていくかが課題である。平成28年に

は鉄道博物館が開業するが、角屋を訪れる人は年配の方が中心で、水族館や鉄道博物館とは客層が異なるためなかなか難しいと感じている。

先ほど30年後、50年後の将来ビジョンというお話があった。余談であるが、2040年頃には京都全体で大地震が起こる可能性があり、あまりに震度が強いと角屋の建物は倒壊してしまう恐れがある。

◆平野委員

2年間の活動を通じ、下京区西部エリアの様々な特性が見えてきた点、また、今後このエリアの活性化を図っていく上でキーパーソンとなる方々と繋がることのできた点について、大変ありがたく思う。

これから先、あと2年ほどしたら京都鉄道博物館がオープンする。そこに向けて、どうやって地域を盛り上げていくべきか、検討会議メンバーをはじめとする地域の皆様と御相談し、また御協力をいただきながら、引き続き考えてまいりたい。

下京区西部エリア活性化の将来構想を来年度中に策定するということである。検討会議報告書にも記載のある「鉄道駅（京都駅、丹波口駅）⇄梅小路公園間のアクセスの改善」や「歩いて楽しい歩行者ルートの確保」などは、私どもJRにとっても関わりのあることであり、どんなことを将来構想に盛り込めるか、京都市とも相談しながら勉強してまいりたい。

◆太田委員

今日、梅小路公園に非常に多くの方が集まっているのを拝見し、検討会議報告書にあるように、梅小路公園がこのエリア全体の活性化を牽引する核（コア）であると再確認した。

先だって、近隣の旅館の方とお話をする機会があり、京都駅から梅小路公園へ向かって七条通に人が集まっているが、龍谷ミュージアムのある辺り、七条堀川の交差点からやや北へ上がると、少しの距離で人の流れが途絶えてしまうという話をした。核（コア）に集まる来訪者をいかに周辺へと回遊させるか、これまでからキーワードとして出ている「回遊」「連携」といったことが、やはり重要になってくると思う。

また、本願寺門前町「いちろく市」で尽力されている門前町の方をはじめ、検討会議の外にも頑張っている自主的な活動されている方がおられる。エリア活性化の当事者となり得る方々であると思うので、そういった方も同じテーブルについて議論できるよう、来年度以降の新たな会議体の構成員については、改めて考えた方が良いと思う。

最後に、資料3「平成26年度の下京区西部エリア活性化の取組」について、「将来構想策定」の後にある「構想の推進」と書かれた矢印が、網掛けで強調されている点を嬉しく思う。というのは、大学の関係で他の自治体と様々な連携の話をしていても、現場の会議体ができると自治体側が撤退されてしまい、たちまち予算もつかなくなるといったことがあるためである。ぜひ今後とも京都市には強い連携関係をお願いしたい。

◆谷口座長

とても重要なことだと思う。また、来年度以降のメンバーについてもアドバイスをいただいた。ぜひ検討していただきたい。

皆様から大変重要な御意見をいただいた。検討会議報告書については、概ね原案の内容でまとめられるかと思う。1点、中川委員からの御指摘を踏まえ、21ページの「ミニコスプレサミット」の記述は削除させていただく。

(6) その他

◆谷口座長

最後に議題(5)「その他」として、事務局から「京都市生物多様性プラン」について報告をお願いします。

◆事務局(京都市総合企画局市民協働政策推進室 三科プロジェクト推進第三課長)

— 「京都市生物多様性プラン」について資料説明 —

◆谷口座長

最後に私からも1点お知らせさせていただく。追加資料として3冊の冊子をお手元に配布させていただいたのだが、これは、京都市の「未来まちづくり100人委員会」から立ち上げられた「NPO京都景観フォーラム」が、地域の団体と協力して作成された、七条界隈のマップや七条大橋に関する冊子である。この検討会議ではあまり出てこなかったが、景観や近代建築、土木といった観点にスポットを当てており、対象エリアとして七条通、下京区西部エリアを含む部分までカバーしている。来年度以降、連携の可能性など考えていければと思う。

予定の時間を過ぎてしまい、申し訳ない。長時間に渡り御議論いただき、御礼申し上げます。2年間の検討会議の活動を通して、下京区西部エリアの資源、課題をまとめることができた。「このエリアにはこんな資源がある」ということを、当事者である我々が知ることができたのは、とても大事なことである。加えて、関係者同士の「顔の見える関係」も構築できた。ここにいる我々の責任は重大である。この関係を、来年度以降の実際の活動に繋げていければと思う。

皆様から、検討会議に参加できて良かったとの御言葉をいただき、私も嬉しく思う。

以上で、本日の議事はすべて終了とさせていただき、事務局に進行をお返しする。

◆事務局(京都市総合企画局市民協働政策推進室 西田プロジェクト第三係長)

会議が長時間に渡り、申し訳ない。2年間に渡る検討会議の取組への御協力に、改めて御礼申し上げます。本日はこれで散会とさせていただく。

平成25年度第5回 下京区西部エリアの活性化を目指す検討会議
出席者一覧表

(五十音順, 敬称略)

	団体名	役職名	氏名
座長	コミュニティデザイン研究室 同志社大学大学院総合政策科学研究科	代表 客員教授	谷口 知弘
	梅小路活性化委員会	委員長	市村 勝
	京都駅ビル開発(株)	取締役営業部長	奈倉 宏治(代理)
	京都市	下京区長	山本 耕治
	京都市	総合企画局プロジェクト推進担当部長	中村 豊彦
	(公社)京都市観光協会	事務局長	山崎 晶子
	京都市中央卸売市場協会	専務理事	北島 誠一
	京都市中央卸売市場第一市場	次長	高木 淳
	京都商工会議所	産業振興部まちづくり推進担当課長	外池 順一
	(公財)京都市都市緑化協会	専務理事	藤井 俊志
	(特活)京都・地球みらい機構	常務理事	高梨 日出夫
	京都府旅行業協同組合	理事長	山本 芳孝
	京都リサーチパーク(株)	営業部長	鈴川 和哉
	自治連合会〈大内自治連合会〉	会長	本政 和好
	自治連合会〈七条自治連合会〉	会長	西村 為彦
	浄土真宗本願寺派(西本願寺)	寺務所内務室課長	三輪 亨
	真宗大谷派(東本願寺)	宗務所総務部出仕	島山 真(代理)
	(公財)角屋保存会	理事長	中川 清生
	西日本旅客鉄道(株)(JR西日本)	近畿統括本部京都支社地域共生室長	平野 剛
	龍谷ミュージアム	事務部次長	太田 功